



「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第175回 平成を振り返る

それぞれがとらえる「平成」

もうすぐ「平成」という元号が終わる。それを踏まえて日本では平成を振り返る報道も目立つようになった。そういう意味で、今回はコンサルティングの現場から少し平成を振り返ってみたいと思う。

平成については、それぞれで捉え方に違いがある。一つにはインターネットの普及を背景としたネット社会の到来、さらにはスマホの登場によるICTの利活用による生活や消費の変化を捉えたものや、これらの変化と共に消費税導入以降のデフレ時代への突入への変化など、それぞれで捉え方はマチマチ。読者の皆さんもそれぞれ色々な捉え方をされているのではないだろうか。

崩壊の時代

筆者は、「平成」を一言で表すと「崩壊」の時代だったのではないかと感じる。世界的には、ベルリンの壁の崩壊やソビエト連邦の崩壊、また世界を激震させたアメリカ同時多発テロ事件などがあったが、日本では、自然災害による崩壊も多かった。

平成になってすぐに発生したのが阪神・淡路大震災。筆者は神戸でこの震災に遭った。立ち上がることができないような大地震は、はじめての経験だった。幸い筆者の自宅は、倒壊は免れたが、筆者が当時所属していた企業も多くの従業員が罹災し、多くの悲しい知らせに接することになった。新たな成長ではなく、復興に向けて力を注いだ時でもあった。その後も全国では地震による災害が続いたが、もっとも悲惨だったのが記憶に新しいのが東日本大震災だ。震災と共に津波によって恐ろしいほど多くの人命が失われた。福島第一原子力発電所事

故による災害もあり、未だに復興の途上とも言える状況だ。

崩壊の中での支援テーマの変化

コンサルティングという点から見ると、経済面での変化が支援テーマを大きく変化させる。変化に対応したコンサルティング技術の開発ができなければコンサル会社も生き残ることは難しい。平成になっての経済面での大きな影響ということでは、一つ目はバブルの崩壊であり、もう一つがリーマンショックだ。平成になって間もなく起こったバブル崩壊は、日本では安定成長期に終わりを告げ、失われた20年と呼ばれる低成長期に突入した時である。これに端を発して、その数年後には、山一証券や日本長期信用銀行、北海道拓殖銀行といった銀行までもが破綻。土地神話は崩壊し資産価値は大きく下落。筆者も当時所属していた企業で工場の地方展開を推進する立場だったので、社宅費用を抑制する必要から持ち家推進を図る立場として、自宅を売却して新たな展開先に家を建てることにしたのだが、いよいよ家が建ち、今まで住んでいた家を売却しようとしたタイミングでバブルが崩壊。当初の査定価格から4割も売却価格が下落。まだ売却できただけマシと言われる状況でやむなく多額の借金を背負う羽目になった。バブルの崩壊は土地だけではなく株価も下落。これら資産価値の下落は担保余力の低下を招き資金繰りに苦しむ企業が続出。倒産に追い込まれた企業も多かった。実際、多くの総合スーパーが経営破綻したことから、

【第12面に続く】

<執筆者プロフィール>



高橋 功吉 (たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 / 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

ピントン工業団地3

工場用地販売

**15ライと5ライの
計20ライ**

土地代 3,600,000 バーツ/ライ

お問い合わせ先バンコク週報

081-811-8036 (日本語)

特選物件情報

コンドミニアム販売物件情報

場所	チェンマイ
階数	7階
広さ間取り	1ベッドルーム 54.29㎡
価格	600万バーツ
住所	Huay Kaew soi 3 Chonprathan Rd.

コンドミニアム周辺情報
ドイステーブやチェンマイウォーキングストリート、チェンマイ大学が近く、和食、中華、イタリア料理等、様々なレストランが周辺に多数あり、生活に便利です。

お問合せ >>> バンコク週報グループ
TEL:(02)632-9179 FAX:(02)632-9354~5
 Charn Issara Tower 1st Floor, 942/43 Rama4 RD., Suriyawongse, Bangkok 10500

【第11面から続く】

その深刻さを誰もが身近に感じた時代。新卒の採用を見合わせる企業も多く、就職先を探すのにも苦労する時代でもあった。コンサルティングの現場も、いかに経営再建を図るか、生き残りのためのコストダウンを図るかが重要なテーマであった。

ようやく景気も回復してきたという時に発生したのが、リーマンショックだ。異常な円高という厳しい環境の中で、派遣法改正や温室効果ガス1990年比25%削減構想が打ち出されるなど、日本でのものづくりを否定する政策展開で、各企業は製造拠点の海外シフトを加速せざるをえなくなった。日本に残る製造拠点も、派遣から請負にとシフトせざるをえなくなり、今まで築き上げてきたものづくりノウハウは消滅していくことに。日本が築いてきた「日本のものづくり」を崩壊させることになった。

製造系でのコンサルティングでは、今までの日本の製造拠点の生産

性向上のテーマは消滅。海外シフトの支援や海外拠点への支援が中心となった。

飛躍に向けて

このように平成は、今まで築いてきたものが崩壊された時代だったのではないかと感じる。しかし、逆に読者の皆さんがタイでの事業を拡大されてきたように、日本はグローバルでの飛躍に向けての基盤を整備した時代とも言える。

日本のものづくり、日本の技術をいかにグローバル拠点で継承して発展させるかが次の元号では必要不可欠だ。もうすぐ「平成」という元号が終わる。このタイミングで次に打つべき手を考えてみることも必要かもしれない。



『実録！トラブルシューティング』

東洋ビジネスサービス

①横行する「なりすまし詐欺」

タイに現地法人を持つA社の「なりすまし詐欺」の被害についてのご相談を紹介します。

A社のタイ現地法人は、複数の海外サプライヤーから部品を調達しており、海外送金で決済しています。ある時、海外サプライヤーの一つであるベトナムのB社から、部品調達にかかるインボイスおよびドイツの口座への送金依頼をメールで受けました。

A社は、常時取引のあるB社からの送金依頼であることから、B社に対する詳細の確認を行わないまま、ドイツの指定口座に送金しました。送金後にB社に対して、資金決済の確認をしたところ、メールは送っていないばかりか、インボイスの発行や送金依頼もしていないとの回答がありました。

改めて送金依頼メールを確認したところ、依頼メールの送信元はB

社のメールアドレスに類似した別のアドレスで、指定口座もB社のものに似た別の名義のものであることが判明しました。A社はあわてて銀行に問い合わせましたが、後の祭りです。既に送金した資金は引き出されてしまっていました。

◆送金する前に必ず照会・確認を

反省点は、A社のタイ現地法人の経理担当部署が、社内の担当者やB社に直接、取引についての事実確認や指定口座変更の有無などについて詳細を確認しないまま、送金してしまったことです。

A社は複数の海外サプライヤーとの取引があり、なりすまし詐欺の対象となるリスクが高いにもかかわらず、社内におけるリスク管理や情報共有などの体制が不十分であったと言えるでしょう。

現在、タイでは今回の事例のように、海外取引先になりすましてメールを送り、送られてきたお金をだまし取る詐欺が増加しています。各銀行のHPなどで注意喚起がされていることから、その内容を社内で共有するよう徹底するとともに、海外取引先への送金や口座変更の通

【第13面に続く】

これまでにないタイ人従業員向け新しい日本語学習ツール

「Sail」のご紹介

Sailの3つの特徴

語学学習

オンラインでの日本語学習機会を提供する事で、社内の日本語教育の負担軽減が実現します。普段の学習との組み合わせで従業員様の飛躍的な日本語能力向上の一助となります。

多世代教育

社会に出ると様々育った環境が異なる背景、年齢、考え方を持つ人とのコミュニケーションが不可欠です。そこで注目されているのが「多世代コミュニケーション能力」です。

ICT教育

インターネットを活用しての学習を促進させましょう。これまで出会う事が無かった人、知識に効率的にアクセスする事が可能になります。



Sailを導入する事で得られるメリット

企業様向けメリット

- 1 従業員の満足度向上
- 2 従業員の多世代コミュニケーション能力向上
- 3 ビジネスへの効果

従業員様向けメリット

- 1 日本語レベルアップ
- 2 クリエイティブ・シンキング能力の向上
- 3 従業員の日本文化理解の向上

日本でも様々なメディアに取り上げられております。

the japan times



日経スペシャル
ガッパの夜明け



THE YOMIURI SHIMBUN
読売新聞